

## 令和5年度 第8回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和6年2月7日（水）午後6時30分から午後8時まで
- 2 開催場所 伊東市役所高層棟8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員4人（欠席3人）  
市長、中村副市長、岸副市長、教育長、理事、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

### 4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

### 5 会議概要

#### (1) 開会

企画課長から開会

#### (2) 市長挨拶

お疲れのところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。令和5年度、第8回目となります未来ビジョン会議の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

昨年末のプレゼンテーションでは、素晴らしいご提案をいただきありがとうございます。本日は、委員の皆様一人一人としっかり意見交換を行いたいと思います。より実りある会議としたいと思い2つのグループに分けさせていただきました。本日のテーマですが、プレゼンテーションのテーマでもありました、住んでみたい、住んでいたいまち作りでございます。

プレゼンテーションの内容やワークショップでのご意見等を踏まえまして、皆様と意見交換ができればと思います。このまちの未来を変える、変えられるのは私達であり、一人一人がこういう伊東市を作りたいという意味を込めて、未来を描けば、本市の未来をより良く変えることができると思いますので、皆様と一丸となって、夢と希望を形にできる未来の実現に向かっていきたいと考えております。ぜひ本日も忌憚のないご意見をお願いいたします。

#### (3) 意見交換

##### 【市長】

それでは早速意見交換に入ります。

住んでみたい、住んでいたいまち作り、という視点でワークショップとプレゼンテーションをしていただきましたが、プレゼンテーションでは伝え切れなかったこと、あるいは全く別の観点から、皆様とごつくばらんに意見交換ができればと思います。

それではトップバッターはA委員にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

##### 【A委員】

自分なりの考えをお話しさせていただきます。私たちの班では「未来につなげるまち作り」をテーマに、若者世代が豊かに育つためにどうすれば良いのかについてディスカッションを行いました。伊東市には良いものがたくさんありますので、新しいことを始めるだけでなく、既存の良いところをより良くしていく視点で、既存のイベント同士を掛け合わせて何かできないか、というところを発表いたしました。

私が所属する東海自動車では、小室山で事業を実施しており、2021年4月に山頂施設をリニューアルしました。元々展望台があったのですが、2019年の台風で崩壊したため、リニューアルして再オープンしました。この施設の支配人と、元の展望台から見えた景色とリニューアル後の施設からの景色は同じでも、遊歩道やカフェを作ったことで、見せ方を変えるだけで、たくさんのお客様が訪れる場所が変わったね、という話をしました。例えば、城ヶ崎海岸には雄大な景色がありますが、50メートルほど延伸して橋を作り、逆に陸地側の景色を見る、それだけで新たな魅力を発見できると思います。

このように、今あるイベントを掛け合わせたり、見せ方を変えることで、伊東市の豊かさがさらに発展するのではないかと思います。市役所や私達民間企業だったり、力を合わせて伊東市の良さをどんどん創出していくということが、これから必要かなと考えております。

それと今、子どもが3年生なのですが、小室山や公園など一緒に行って遊ぶようにしております。結局、親として子どもに何ができるかということ、伊東市の良さを子どもにしっかり伝えていくことが私たち親世代の努力や義務だと思っております。なので、なるべく伊東市の良いところによく行きます。私達子育て世代がしっかり子供に伝えていく、というところを、自分なりに意識しているつもりです。こういう意識をもっと多くの方が、高く持てば、とても良いまち作りにつながりますし、良い子どもたちがたくさん育っていくのかなと思います。

私の子どもは伊東小に通っております。三校合併で3クラスになって、私の子供は非常に楽しいという話をしております。結局、1クラスですと良くも悪くも狭いコミュニティになってしまうので、そういう意味では三校合併で色々な子どもたちが集まって、色々な意見があって、行事もたくさんの児童たちでできるという魅力があると思いますので、やはり数の力はとても強いと思うので、個人的には三校合併して非常に良かったと感じております。

そういうところで色々なネットワークができて、家庭も頑張っって伊東市の良さを訴求して、若い子に伝えていくということで、色々な視点で伊東市の未来のためにみんなが考えて行動するというのが、必要だと思います。結論を申し上げますと、今ある伊東の魅力を皆で考えて、施策を打って、若い世代が戻ってきてくれるような伊東市の未来が描ければと思います。

## 【市長】

委員ご自身で色々意識していただいているようで、ありがとうございます。やはり子どもの力ですね。伊東が良い場所だ、と思えるようになってほしいと思います。特に小室山での事例については、とてもよく伝わりました。やはり見せ方で大きく変わるものですね。わかっているけど、あのような大規模な施設はなかなか作れないので、多額の資金を投入していただき、本当に感謝しております。

今日は他の委員の方々からもお互いの意見にコメントをいただければと思います。まず、学校の話が出ましたので、C委員にお聞きしたいと思います。伊豆伊東高校も三校6クラスになりましたが、生徒の皆さんそれぞれの目的を持って通っていると思います。少子化の時代になりましたので、工夫が必要だと考えております。例えば、今まで東小学校では1クラスだったのが、4月から三校が合併して3クラスになり、子どもたちから喜びの声があると聞いております。こういった点でもご意見をいただければと思います。

#### 【C委員】

伊豆伊東高校も統合1年目を迎え、小学校の三校統合と同様に、高校でも三校が統合され、様々な生徒と接する機会が増えました。学校統合について、私たち高校も同じ意見で、タイプの異なる生徒が集まることで生徒、教員ともに不安もありましたが、実際に同じ学校で生活してみると、各校の良さが出て、コミュニケーションが取れ、横のつながりもでき、学校全体が盛り上がっているように感じておりますので個人的には、学校統合によってさらに活気が出ていると思います。

一方で、統合による課題もあります。現在、伊豆伊東高校は多岐にわたる分野を展開し、どんな生徒でも受け入れられるような授業を行っております。具体的には、城ヶ崎から引き継いだアート類型、商業からのビジネスマネジメント科、伊東高校からの進学・特進類型、そして新設のスポーツ類型など、様々な生徒を受け入れています。しばらくはこのような形で幅広く受け入れ、柔軟に対応していけるとと思いますが、ここでお聞きしたいことがあります。伊豆伊東高校に対して、今後望んでいることを具体的に伺いたいです。様々な類型があり幅広く受け入れられる一方で、専門的な教員の配置も必要であり、「〇〇が強い」という形にすることが難しい場合もあるかと思っておりますので、伊豆伊東高校に望むことを市長に幅広く伺いたいです。

#### 【市長】

おそらく中学生ぐらいのときに将来の方向性を考えたりする中で高校選びも含めて決めることが多いと思います。伊豆伊東高校もカテゴリーが分かれており、自分で選んで進学していると思います。高校時代には、また一段と明確な目標を持ち、例えば受験やスポーツなど、それを実現するために考え実行していく時期なのではないかと思えます。教育長の方からもお話ししていただけます。

#### 【教育長】

教育長の高橋です。今日はありがとうございます。伊豆伊東高校には、伊東の子どもたちが大変お世話になっており、感謝申し上げます。

今、市長から高校に望むことについてお話がありましたが、データ的なことを申し上げますと、伊豆伊東高校を設立するにあたり、保護者アンケートを行いました。その結果、一番多かった希望は、子どもたちが進学など本人の行きたいところへ行ける力をつけてほしい、ということでした。小中学校も含めて、教員としては魅力ある学校、静岡県内100近くの高校の中でも特に光る魅力を持ち、どこにも負けないような学校になってほしいという希望が出ています。学校によって考え方は様々ですが、他にはないカリキュラムを作り、魅力を高めていただけたらと思います。

## 【市長】

それでは、次にB委員お願いいたします。

## 【B委員】

今、色々な話が出ましたが、基盤は皆さんと共に決めていくとして、別の視点でお話しをしたいと思います。イスラム圏について、旅行者の集客に昔から大変興味を持っておりまして、この町のリソースが宝の山のように、文化・教育・伝統すべてが豊富にあると感じます。特に、アゼルバイジャンというイスラム教の国と友好交流都市締結を果たしたことは素晴らしいことだと思っています。

まず、拝礼への対応を除いて、必要な対応が六、七項目あり、他の都道府県は対応に苦労していますが、伊東市は全てクリアしています。食べ物に関しても、魚介類、寿司、和菓子などがあります。イスラム教で許されるハラールフード、業務用スーパーでも多く販売されています。伊東市での一例は、野菜、果物、穀類、魚介類、海藻、牛乳、卵などです。伊東市は地産地消にも力を入れていきますし、お子さんたちも畑に行ったり米の収穫を体験し、文化教育につながっており、多様性に長けた子どもが育っていくと思います。また、ムスリム向けの独立した情報もありますが、友好交流都市があることを生かして対応を進めることができます。日本の誇るウォシュレットも、イスラム圏の方々には喜ばれており、紙を使わない文化にも合っています。城ヶ崎の数寄屋造りのお手洗いなども素晴らしいです。お風呂についても、家族用の貸切風呂があり、他の施設も改装工事を行わずに対応可能です。首都圏からのアクセスも良いですね。

2015年に観光庁が訪日ムスリム外国人旅行者受入環境整備等促進事業を行っており3地域が採択されています。イスラム圏の方々には豚肉はもちろん、牛肉や鶏肉も特定の方法で処理されたものしか食べられませんので、まずはレストランの分類などの対応を行ったようです。しかし伊東は刺身など海鮮類が多いので心配されている部分の難易度も低いです。

伊東市は地理的に小さく、歩き回るのにも適しています。また、タイ、マレーシア、インドネシア、友好交流都市であるアゼルバイジャンなどイスラム圏の方がかなりいらっしゃいます。私の友人にもイスラム圏の方が何人かいますが、彼らは富裕層や中間層が多く、個人旅行で一回の旅行に数百万円を費やします。観光地で多くのお金を使うことが特徴です。

伊東市には和菓子屋が多く、和菓子はハラール対応の原料をクリアできるため、和菓子作り体験が非常に人気になると思われます。地産地消の推進や文化、今あるものを生かすことができます。またサンクチュアリなものを好む方が多いので、そういった魅力も生かせると思います。気候も温暖で四季折々の自然を楽しむことができますのでこれらの条件を生かし、「Muslim Welcome Marine Town I t o S t a r」なんて仮に名付けたりして、ネットを活用して拡散させることで楽に集客も見込め、まちや文化も変わっていくのではないかなと。上手に交流して外の風に触れることも大事です。

私もひとつそうだな、と思った記事があります。令和5年10月11日の伊豆新聞に海外の事例に学ぶという記事が掲載されておりました。観光客で賑わっていても、あそこは観光客向けだからねで終わらないように、日常の風景と資源を観光資源と捉え、その良さを壊さずに受け入れる環境を整えることで、地域の強みを生かせるはずというこ

とでした。これも常々頭にあったもので、そういうことなのかなあという感じがしましたので、グループでの発表とは違う部分で話をさせていただきました。

#### 【市長】

未来につなげるまち作りという、発表にもありました既存のものと色々融合しようというお話もきっかけだったかと思いますが、ポテンシャルの高い部分をもう一度見直す機会ですね。イスラム文化は日本ではなじみが薄いかもしれませんが、自信を持ってお客様に提供できる観光資源があるということで。岸副市長も過去に給食の担当をしていた経験もあり食に関心が高いため、変わります。

#### 【岸副市長】

B委員、ありがとうございます。個人的には海外ですとタイに着目しております。元気のある方が多い、などとても良い印象です。

イスラム教の方については、やはり食事の対応が難しいと考えておりましたが、今のお話を伺う中で対応できるかもしれない、通用するかもしれないと思いました。これから伊東市は人口が少しずつ減少していくかもしれませんが、魅力を維持しながら持続する街にするために、色々な政策を打ち出していかなければならない、という状況です。特に観光の街ですから、新しいエリアからのお客様を迎え入れる、ということも一つの戦略として必要と思います。

食については子どもたちのために無農薬の食材を、という話もありますが、さらに進んでいけばお客様に向けて、といった形で応用もできるかもしれない、といった視点を持つことが重要と考えておりますので、本日いただいた情報、さらに研究したいと思えます。

#### 【B委員】

付け加えさせていただきますが、ガストロノミーツーリズムというものを観光庁を通してアゼルバイジャンの観光調査の方が訪日されておりました。今おっしゃられたことで、その土地の気候風土が育んだ食材、習慣、伝統、歴史などによって育まれたもの、この地域で言いますと伊東市の食文化は観光資源、安心ということにつきます。

#### 【市長】

はい、ありがとうございました。本当に違う視点から教えていただき、とても感謝しています。

#### 【C委員】

改めてよろしく申し上げます。私から3点お聞きしたいことがあります。対話形式で進めたいと思いますので、短く切らせていただきます。

1点目は、当グループの発表の中にもありました地産地消の意識からヒントを得て質問したいことがあります。地産地消を改めて考えてみると、意識しても自分自身ではなかなか難しいと感じました。しかし、見方を変えれば商品の価値が高いため、お土産やお歳暮などに活用できるのではないかと考えました。先日、学校の探究活動で「伊東市の銘菓ホールインを全国一有名なお菓子にせよ」というテーマで議論している班があり

ました。そこで「ふるさと納税を活用して銘菓を寄贈品として送る」という案が出て、私自身も良い案だと思いました。地元民が消費しにくい部分があっても、地元の商品には価値があります。ホールインや伊東市で作られるものを、ふるさと納税として導入するのはどうかと考えました。市長はどのようにお考えですか？

#### 【市長】

ふるさと納税は現在、順調に右肩上がり伸びており、年末時点で5億円を突破しています。高校生にも盛り上げてもらい、違う視点で可能性を広げていきたいと思えます。所管する中村副市長からもお答えいたします。

#### 【中村副市長】

ふるさと納税は徐々に金額を増やしておりますが、まだ十分でないところもありますので、今後も頑張っていきたいと思っております。直近の話をいたしますと、沼津市では若手職員が商品開発のアイデアを出し、それを寄附の返礼品に加えることで寄附額が増えたというニュースもありました。また、焼津市は静岡県で一番寄附を集めていますが、先方から色々とお話を伺う機会もありますので、今後は焼津市や沼津市の取組を参考にしていきたいと思えます。色々な商品を開発して寄附額を伸ばす努力を続けます。

#### 【C委員】

ありがとうございます。次に、グループAから出た「シビックプライドの醸成」についてお話しします。地域に根ざした学校として協力していきたいと思っております。例えば、1月に開催されたオレンジビーチマラソンでは、生徒と共に走りました。気候も良く、とても気持ちよく走れました。このように行事に参加することでシビックプライドが育まれると感じます。私としては、伊東市でボランティアや行事に参加することでシビックプライドが育まれると考えておりますが、新たな切り口や、今後どういった協力がほしい、という部分についても一緒にお尋ねしたいです。

#### 【市長】

プレゼンテーションの際にシビックプライドについての提案があり、例えばビーチクリーンや海岸清掃などが挙げられていました。伊東市ではゴミゼロ・クリーン運動を5月30日近辺の日曜日に実施しており、千人規模で多くの方々が参加しています。これは市内最大規模のボランティア活動ではないかと思えます。他にも、街を綺麗にする活動やお花を植える活動を行っている団体があります。しかし、若い方々の参加が少ないように感じます。これらの団体と高校生などの若い世代と一緒に活動できるようサポートすることが、我々にできることだと思えます。

新たに何かを始めるのは大変ですが、既存の活動に若い層を融合させていくことが望ましいのではないのでしょうか。強制することはできませんので、自発的に参加したいと思えるような雰囲気作りが重要と思っております。ちなみに、ゴミゼロの際には私もゴミを拾っていますが、若い人たちと話をする貴重な機会となっております。マラソンは体調が悪くなると困るので控えていますが、雰囲気作りが非常に大事だと思えます。参加しやすいムードを作りたいと思えます。

### 【C委員】

ありがとうございます。3つ目の質問をお願いします。

高校生と人とのつながりについて考えました。高校生が最も身近に接するのは保護者と教員です。学校でも日々コミュニケーションをとっていますので、教員としてできることは頑張りたいと思います。次に、高校生と市民の交流についてですが、行事に参加したり、地域の団体とつながることで解消されると思います。ボランティアの案内もありますので、引き続き協力体制をとっていかうと思います。

最後に、高校生と中学生のつながりについてです。学校の体験授業や文化祭に中学生を招くことで、高校生との交流が図れます。未来ビジョン会議に高校生を特別に参加させていただき感謝していますが、さらなる交流を深めるために中学生も招いてみてはいかがでしょうか。高校生の実態はよく分かりますが、中学生ともコミュニケーションをとってみたいと思います。中学生と高校生が意見交換をすることで、それぞれの良さや考えが広がると思います。この提案を参考にしていただければと思います。ありがとうございました。

### 【市長】

ありがとうございます。今年度、高校生が入ってくれてフレッシュな感じがしました。先日学校に伺い、ビジネスプランのプレゼンテーションを見ましたが、内容が立派でプレゼン能力も高く感じました。伊東市役所の職員も驚くほどの優秀な生徒たちでした。中学生を会議に招く提案についても、時間帯や曜日を考えながら実現できるよう検討します。ありがとうございました。

### 【D委員】

また改めて前回は、提言をご清聴いただきまして、誠にありがとうございます。今年度最後の会議なので恐縮なのですが、やや長めに2つに区切って発言させていただければと思います。

まず1点目は、交通まちづくりについてです。まずこれで3回目になるのですが、伊東市役所への公共交通アクセスについてのホームページへの記載はなされないのでしょうか。現時点で何ら改善が見られていないです。沼津市や私の出身である立川市のような自治体ですと、鉄道アクセスはもちろん、バス乗り場の番線や、どの方面へ行くバスに乗ればいいのかまで書いています。これに関しては難しいことではないはずですから改めまして、早急に改善するよう強く要望いたします。

また1月17日付けの伊豆新聞によると東海バスさんの運転手不足によって観光客で賑わう熱海にてバスの運休が起きたとのこと。昨年12月に私の方から市内バス路線の運転手確保における財政支援をご提言させていただきましたが、やはり伊東市も他人事ではありません。福島県いわき市では4月から15路線64系と187本のバス運行がなくなり遅きに失しておりますが、緊急対策を講じています。ですが、やはり、もはや手遅れです。いわきのように手遅れにならないように一刻も早く、前回提言でも紹介しました沖縄県石垣市、大分県別府市のように国の補助金も活用しつつ、早急に運転手確保策を検討実行されるべきと考えます。なお別府市は支援策の結果、早速2人の移住者がバス運転手となる実績を上げています。また、2月18日日曜日に伊東自動車学

校にて東海バスさんが運転手確保の一環としてバス運転体験会を行われるようです。沼津市ではバス運転体験と船の操舵体験ができる移住説明会、なんてものがありまして、頼重市長も直々に、SNSのXでポストして周知に努めてたりもしておりますので、伊東市でもすぐにはできることとして、東海バスさんの運転体験会を、なんかしらの形で発信されてはいかがでしょうか。この2点の質問について、お答えをお願いできたらと思います。

#### 【市長】

はい、ありがとうございます。アクセスについてはすぐに対応可能ですので、この会議でのご提案を担当部署に明確に伝えますのでお待ちください。

次に運転資格の対策についてですが、先日、東海自動車の社長とお話しする機会がありました。やはり運転手のなり手が少ないという現状があります。大型免許がなくても、やる気があれば会社が免許取得にかかる高額な経費を立て替える支援をしています。ただし、3年間勤務することが条件となります。しかし、それでも3年の間に辞めてしまう方もおり、大きな悩みとなっています。私もこの状況を伺い、伊東市としても協力したいと感じました。現在、「はじめよう伊東新生活応援事業」として福祉・介護分野での人材不足に対応するために、奨学金返済の援助や引っ越し費用、家賃の支援を行っています。今後はバスやタクシー業界も同様の支援が必要だと思います。やる気のある人材を呼び込むための補助制度を立ち上げることが重要です。ただし、魅力ある支援を行うには財源の確保が必要です。先ほどB委員からもふるさと納税の話がありましたが、そういった収入を得る事業に力を注ぎ、結果的に生まれる余剰金を政策に活用していく好循環を作りたいと思っています。具体策はまだありませんが、ご提案を参考にさせていただきます。

#### 【D委員】

はいありがとうございます。先ほど私が挙げた別府市とか、石垣市ですね、国の補助金をうまく具合に使っている例だったりもするので、国の方の補助金、既存の補助金、何か使えるかなという検討もあってよろしいのかなと思う次第です。ものすごく前向きなご答弁というか東海バスの社長さんに早速、何か今どうですか、というふうに伺われてると思わなかったので、すごく私としてはこれから1年、2年先、だいぶ希望を感じた次第です。

続けさせていただきます。ここから長くなってしまうのですが、2点目、前回提言時に市長はライドシェアについて少し触れられておりましたが、私個人はライドシェアには正直反対でございます。今回の国の方での制度導入は部分的なものにとどまりますが、事故などの責任をタクシー会社でまず背負いきれるのか、国の責任の所在の点なども曖昧です。これ私の個人の考え方になってしまっていますが、政治的な保守を自称しつつ保守主義とは正反対に、古き良きものまで破壊していく新自由主義者たちはライドシェアを推進しておりますが、アメリカの主要ライドシェアの年間交通事故死者数は日本のタクシーの2.6倍、運転手による性的暴行事件は年間1,000件に上り、安全面も不安は残ります。実際我が国でも高速バスの参入規制緩和がありましたが、競争の激化と安全面の傾斜から悲惨な事故が相次ぎました。これらの事故、これらの歴史から学ぶ必要が大いにあります。またかつて小泉政権時代にタクシーの参入規制の緩和も行わ



れ、競争をあおったことで、タクシーの供給は一時過剰になり労働環境の悪化、低賃金化競争の激化によって最終的にタクシー事業者の廃業が増加して、現在のタクシー運転手不足の一因になっています。Uber Eatsのように労働規制外の個人事業主として扱われ過当競争によって低賃金化しやすい、本格的なライドシェア導入はさらなる底辺への競争を招き、結局二次交通の供給が増えない可能性を高めます。実際にニューヨークのライドシェア運転手の85%は最低賃金以下で働いているとの報告もあります。以上の事実を十分に勘案して今後の公共交通政策の検討をお願いいたします。意見だけさせていただきます。

3点目ですが、令和5年第1回会議でも触れた城ヶ崎高校跡地活用についてです。前回も申し上げましたが、伊東市が企業、地域住民、NPO、城ヶ崎高校跡地活用で活動されている方々などを委員とした会議体を創設されてはいかがでしょうか。例えばその会議体で議論して取りまとめた提言を静岡県に提出することで、地域住民と市の一致した思考を示せば、静岡県も下手に地域を無視した跡地活用は行えなくなるかと思いません。なお前にも申し上げましたが、私が前に言った温泉供給や分譲地を担当する弊社の業務課の課長がおるのですが、彼は城ヶ崎高校が母校であり、母校の行く末を案じています。彼曰く、弊社温泉の供給は可能であり、伊東市からの相談を受ける旨を申ししておりましたので、何か相談がありましたら私からご紹介させていただきます。

4点目ですが、私の手元にですね昨年8月25日付けの伊豆新聞がありまして、こちら、伊東にスケボーパークとあります。昨年夏ごろから市内の子供たちがスケートボードやBMXのフィールドであるスケートパーク整備を求める署名活動を行っています。市としても対応されてはいかがでしょうか。確かに若年人口が少ないので、いきなり施設自体を整備するのは、私も慎重であるべきと考えます。一方、伊豆東海岸はサーフィンの文化があり、下田にはスケボーをする若い人も多いので、伊東ならではのカルチャーや若い人たちのシビックプライドを育み、間接的な人口流出抑制策にもなるのではないのでしょうか。そこで例えばニーズの把握と刺激のために伊東市が必要経費を負担する形でマルシェなどの既存イベント、パンプトラックなどを臨時敷設したスケートパークコーナーを設ける社会実験を繰り返し、施設整備の必要性を見極められてはいかがでしょうか。実際沼津市では、お配りした資料がありますけれども、スケボーやBMXのプロであり、沼津通信というグローバルローカルメディアの責任者でもある渡会さんという方が、パーク整備のために様々なイベントにスケートパークコーナーを出店して、ニーズの把握や機運醸成を図っていき、最終的に沼津市が資金を支出する形で静岡と沼津駅北側のスケートパーク整備に至っています。伊東市サイドにノウハウがないということであれば、渡会さん本人がですね、移動型パークプロジェクトと書いてある資料があると思うんですけど、こちらの資料記載の、電話番号に連絡さえもらえれば協力に前向きな旨をおっしゃられていましたので、一度渡会さんに相談されてはいかがでしょうか。

最後の5点目です。特にこれは市長はご存知かと思いますが、本年4月からリンカイという女子競輪をテーマにしたテレビアニメの放送が開始されます。私も少し調べたその主人公格と思われるキャラクターの名字は伊東、出身は伊東温泉の旅館、所属は伊東温泉競輪、好きな場所は小室山と伊東づくしでございます。市長も観覧されておりましたが、先日行われたためちやくちやく市でも、アニメ公式運営や声優が出演し、地域の人たちに愛されようと努力されているのが伺えました。事例として、これまた沼津なのです

が、アニメライブサンシャインの舞台が沼津市になることが決まった際、地元の人たちも、その当時は何をやっていいかわからなかった、何をやるかわからなかったので、アニメによる地域振興の先進地であった茨城県大洗町を沼津市役所や商店街関係者などが視察し、そのノウハウを吸収されています。またファンが沼津で地元住民向けのアニメ上映会を開いたり、商店街関係者でアニメ作品を理解するための勉強会を開いたりなど、交流や作品への理解が深まったのも、ふるさと納税含めて成功の大きな一因と言われています。ファンから結局自分たちの好きな作品を金儲けに利用するだけかと思われると、アニメによる地域振興は必ず失敗します。沼津市の2代にわたる市長、市役所、商業関係者などが作品を理解し、愛着を持った上で、地域外から訪れるファンたちと交流していき、ファンたちも沼津に住む人へ会いに行ったり、地域活動やイベントの手伝いへの参画など、沼津へ行く目的が観光から変わって、関係人口化し、最終的に数多くの移住にもつながりました。アニメによる地域振興は作品に人気があることが前提なので、運の要素も正直大きいのですが、まずは官民で沼津をはじめとした先進自治体の視察をされ、その上で取組を検討されてはいかがでしょうか。長々と失礼いたしました。

#### 【市長】

はい、ありがとうございます。アニメの世界は奥深くてコアな世界だと思っていましたが、沼津の盛り上がりを見ていると、市民を巻き込む力があると感じます。この主役の伊東泉さん、その役柄の声優さんが市でイベントを行った際、多くのファンが訪れ、私もその様子を見てヒットする予感を感じました。伊東市は競輪で収入を得ていますが、市民にもそのことを知っていただきたいと思います。例えば、東海自動車さんのバスにこのアニメのラッピングを施したり、年末には主人公たちのキャラクターが登場するなどして、認知度を高めていきたいと考えています。上映会なども実施していきたいです。

スケートボードパークの話ですが、立地が重要だと思います。現在、中学・高校生が藤の広場でスケートボードを楽しんでいます。何も造作がないため飽きてしまうのではないかと思います。民間の方々も少し興味を持っているので、協力を求めながら検討していきたいです。

ライドシェアについても話がありましたが、隣町の東伊豆町で始められ若干の不安も感じています。規制緩和の是非やタクシー事業者への影響を考えると慎重にならざるを得ません。しかし、市全体で高齢化が進む中、市民や観光客の足をどのように確保していくかについては、ライドシェアも含めて話し合う必要があると思います。当市の高齢化率は65歳以上が43%を超えており、市民の足の確保を真剣に考える時期が来ています。貴重なご意見として参考にさせていただきます。

#### 【D委員】

ご回答ありがとうございます。最後に一つだけ。私も相乗り自体は否定しないですね。公共交通、東伊豆町のものLINEを活用してすごく予約がしやすいですね。あれは、ものすごく使いやすくて、私、稲取に普段買い物に行かないのですが、稲取に買い物に行ったり、カフェに行ったりとか、だいたい稲取にお金を使ってしまったのですね。その際にやはり公共交通が便利だと、私無意識にお金を使ってしまったのですが、お金

が落ちるんだなと後々になって。やはり、自家用旅客運送は今、赤沢のデマンドバスも多分そうだと思うのですが、既存の制度があることにはあるのでそちらを活用してちゃんと法的なところで保障されているものを使う分には全然問題ないと思いますので。ただ、今、このライドシェアというところに関しては、私個人は反対というところがございます。

それからスケートパークについても、いきなり整備はやはり、これは早急、早急的だと思いますので、社会実験とかイベントと、既存のイベントにちょっと何かスケートボードができるコーナーを設けるとか、最初はそれぐらいいいと思うのです。そのノウハウがこの渡会さんという方があったりしますのでそのあたりをご検討いただけたらと思います。

#### 【市長】

ありがとうございました。私は色々と発言をさせてもらいましたので、他の方々にも一言ずつコメントをいただき、結びに向かいたいと思います。中村副市長、お願いします。

#### 【中村副市長】

皆さん、ありがとうございました。皆さんが共通して感じていることは、伊東の良さやシビックプライドをどうやって自分たちで見つけ、若い世代に伝えていくかという点だと思います。

少し違う切り口になりますが、現在伊東市はロケを誘致し伊東のPRをする「ロケツーリズム」に取り組んでおり、5年前から多くのロケが行われています。最近では「おっさんずラブリターン」というドラマで伊東が舞台になりました。この取組は徐々に成果を上げており、市民にも伊東の良さを再認識してもらう効果があります。例えば、東京の学校に通う娘さんがテレビで伊東のことを見て「伊東が映っていたよ、いいところだよ」と家族に話すような場面もあります。このようにロケを通じて伊東の魅力を広く知ってもらい、シビックプライドを高める効果が期待できると思います。今後も市としてロケツーリズムに力を入れていきます。様々なご意見をいただき、ありがとうございました。

#### 【岸副市長】

先ほど市長からも話がありました通り、皆さんのご意見の根底には、市役所だけではなく市民全体で伊東の良さを見つけ出し、発信していくことが重要だという思いがあります。私たち職員も真面目に仕事していますが、遊び心や工夫が必要だと感じました。今日のご意見の中で、既存のものを活用して掛け算で見せ方や伝え方を工夫すること、高校生が地元の人と一緒に活動することが重要だと感じました。例えば、「おっさんずラブリターン」の設定が熱海温泉で批判もありましたが、それを逆手に取るアイディアがあるかもしれません。例えば、SNSで「実はあれは伊東なんだよ」と発信することなどです。皆さんのご意見を参考にしながら、今後の取組を進めていきます。今日皆さんからいただいたパワーを良い方向に転換するための工夫やアイディアをたくさんいただきましたので、これからの仕事でも余裕のある遊び心を忘れずに真面目に取り組んでいきたいと思っています。

**【教育長】**

本当に素晴らしい提案をありがとうございました。多くのご意見を伺い、自分自身も非常に勉強になりました。高校生の意見も聞く中で、皆さんの根底にある統一的な考え方やコンセプトについて考えさせられました。伊東が好きだという気持ちを大人が中学生や小学生に上手に伝えていけば、伊東の良さがもっと伝わると思います。その結果、伊東に帰ってくる人が増えるのではないかと感じました。特に高校生から多くのことを感じました。本当に感謝します。

**【市長】**

それでは、予定の時間となりましたので、意見交換を終了させていただきます。最後のまとめとして、皆さんにこの会議の場で伊東のために考えていただいたご意見を発表していただきましたが、これを実りあるものになりたいと思います。これからも未来ビジョンの会議に参加していただくだけでなく、せっかくながれた人脈を活用していきたいと思います。皆さんとお話ができることを楽しみにしておりますので、決してこれで終わりではなくて、ご提言などありましたら、ぜひ気軽に来ていただきたい、これはお願いでもございますので、よろしく願いいたします。

それでは、事務局から今後の運営について説明がありますので、それをもって終了とさせていただきます。

(4) 閉会

事務局から事務連絡

**【市長】**

今年度の未来ビジョン会議は本日で終了となります。ご参加いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

以 上